

## 社員が一生幸せに暮らせる会社を創りたい

### 目的と手段

企業の目的は、働いてくれている人を幸せにすること、社員の幸せを通して社会に貢献すること。伊奈食品工業の塚原社長は「言葉に感動は同じ思い、目標の売上、利益は手段です。会社の成長も手段です。目的ではありません。」

利益とは、社員を守るためのコストです。利益を蓄積することによって、災害、事故等から社員と家族を守ります。

人件費とは、幸せを求めて働く社員たちの労働の対価です。この支払は当社の経営理念であり、目的です。

私達は、社員の数が(PIの下段)増え、人件費が大きくなることに喜びを感じ、社員とその家族のために働きます。約束します。

私達は、社会に貢献するためにも雇用を創出することに誇りを感じます。

### 会社は誰のものか

会社は、全社員のもので、一所懸命頑張ってくれている社員のもので、株主のものではありません。

会社は社員の労苦に報いるために発展し、利益を出さなければならぬのです。

お客様に喜ばれる会社、社員が幸せを感じられる会社にすることが存在理由です。

当社は株主の利益より社員の利益を優先します。また、社員に株主になってもらいます。今後、3年以内に全社員で50%の株式を保有してもらいます。経理を公開し、株主総会も開催しています。

(現在は20%を社員が保有)

我々は社員を大切にするために上場は絶対しません。上場すると、社員を守れなくなり、お客様満足、仕入先満足、社会的使命の実現が希薄になると思います。上場会社の株主は自分の利益のみ考えている人で公の利益、志があるとは思えません。私の独断でいせん。

全員の法に即した何れにもより、この経営方針。

倫理感の超認識で正直な経営でいる。  
・商法 24条 血のかたが商人道、による経営をいす。

## 立派な日本人たれ

東日本ハウス 中村 功先生

我社の目的は、立派な日本人をつくり、仕事を通じて、社会に貢献することにある。

立派な日本人とは、挨拶、礼儀、親孝行ができ、人に尽くし感謝できる人間、そして立派な日本人になろうと努力することである。

立派な日本人とは、立派な日本人になろうとする人間であり、人に尽くせる人間である。

「立派な日本人」という言葉は、今ではすっかり耳にしなくなっている。皆、日本人であることは間違いないのに、こういうことを言うと、「国際化時代に遅れている」と言う人さえいる。

彼等は自分の国に誇りを持ってないのだろうか。

それがみじめなことだと思わないか。

勤勉さや礼儀正さ、挨拶、親孝行の心といった日本人の資質は、世界のどこに出ても恥ずかしくない素晴らしい特質だと思う。だから世界で通用する「本当の国際人」になろうとしたら、まず「本当の日本人」になることである。

### 所長の小言②

- 自分の損得で物事を考えるな。
- 3年たって、仕事に分かってきたとき、社員は「顔つき」が変わる。
- 心と技術の成長が必要。そのためには自分を変えること。注意されたら素直に変える。
- 自分の人生のために自分を磨くのではなく、少しでも人様のお役に立てるように自分を磨く心掛けを持とう。